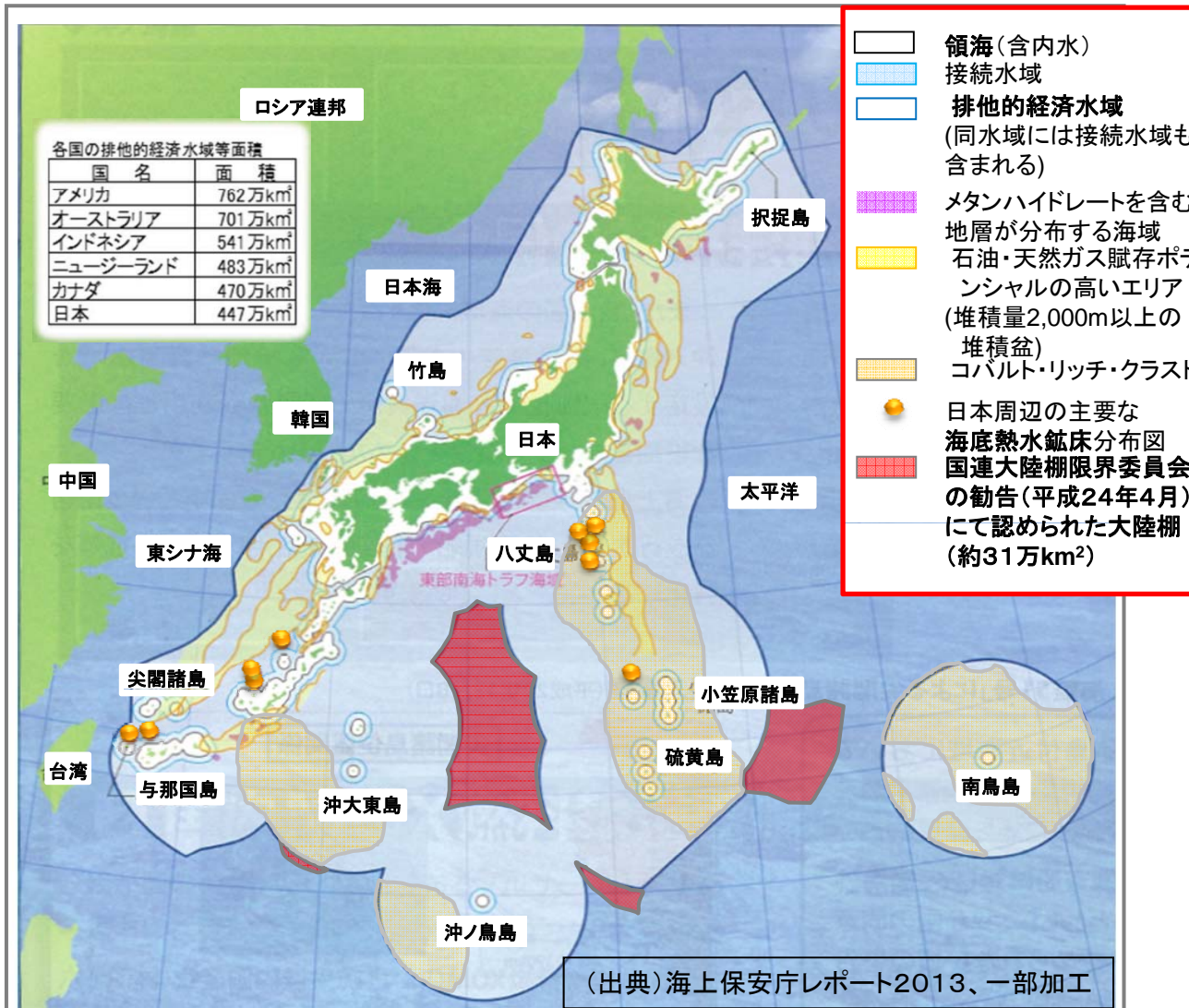


海洋観光の現状

平成26年1月27日

1. 我が国の海洋観光のポテンシャル

- 我が国は世界有数の海洋国家であり、自然、文化、レジャーなど多様な観光資源を保有している。



我が国の海洋を巡る現状

○領海・排他的経済水域(EEZ)の面積
約447万km²(世界第6位)
国土面積の約12倍

○離島の数
6,847島※
(北海道、本州、四国、九州、沖縄本島の主要5島以外の島によって広大なEEZ等を確保)

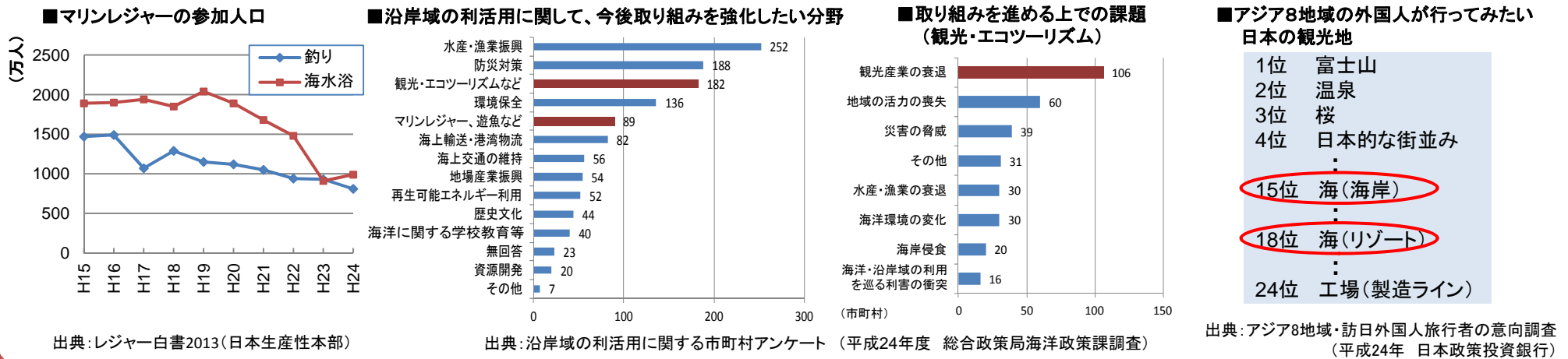
※島の数は、周長100m以上の島を対象

○海岸線延長
約3.5万km(世界第6位)

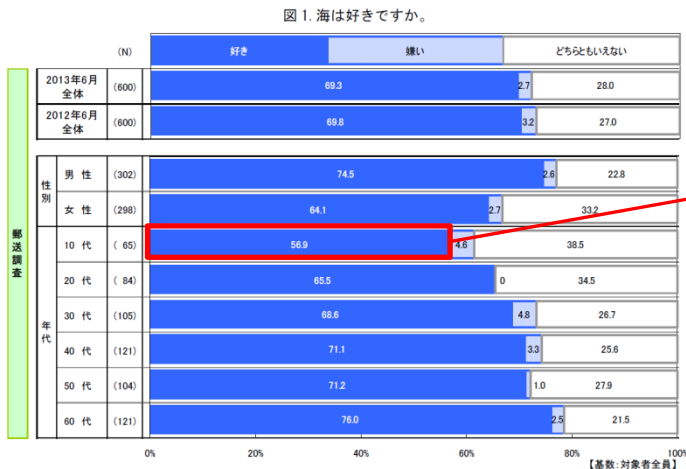
○海洋エネルギー・鉱物資源
海底熱水鉱床等の鉱物資源、メタンハイドレート等のエネルギー資源が分布

1. 「海」についての触れあい実態

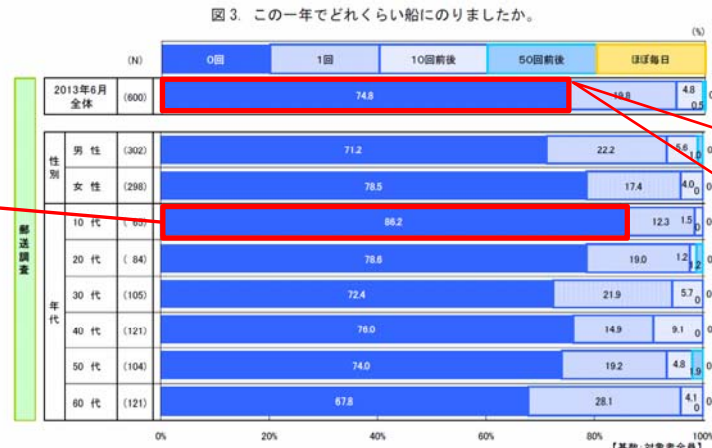
- 我が国は、世界有数の海洋国家であるが、マリンレジャー等の国民が海にふれあう機会が減少し、沿岸域の観光産業が衰退傾向にある。
- 外国人が行ってみたい日本の観光地として、「海」は上位に入っていない。



- 「海に関する国民意識調査2013※」の結果、海が好きと回答した人は7割であるが、過去1年間で船に乗ったことがある人は、全体の4分の1強と少ない。いずれも若年層の数値が低い。



10代が最も数値が低い



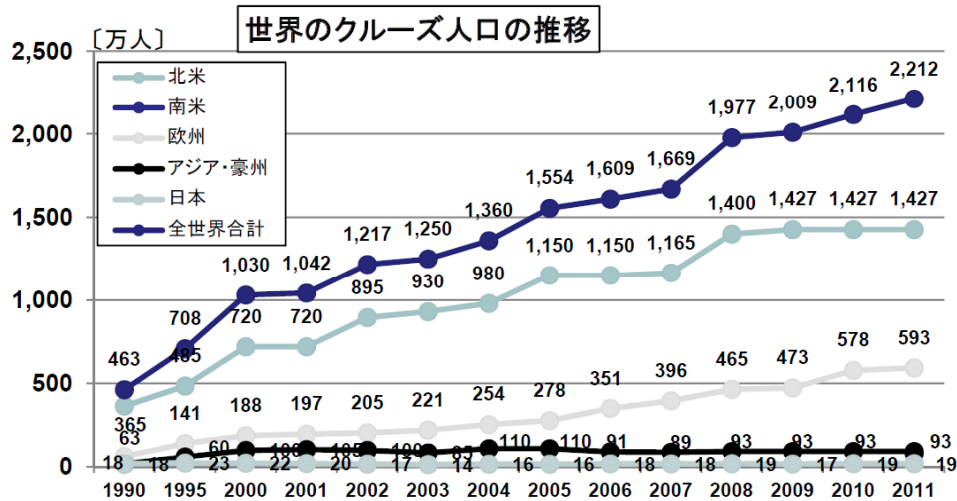
過去1年間で約75%は船に乗っていない

※公益財団法人 日本海事センター 調査結果より抜粋

1. クルーズ需要の増大

- ・ 世界のクルーズ需要は増大しており、日本でも外国船社クルーズの寄港が急増している。
また、外国客船による日本発着クルーズの本格実施も予定されている。
- ・ 我が国のクルーズ人口は概ね横ばいであり、年齢層も高齢層が中心となっており、顧客層の拡大が課題。

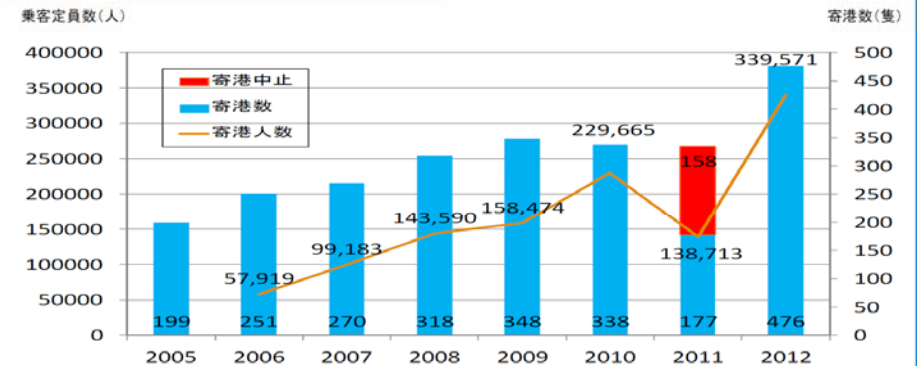
世界のクルーズ需要の増大



注：DOUGLAS WARD「Cruising & cruise ships 2013」より引用
（日本の数字は国土交通省海事局調）

外国船社クルーズ船の寄港回数推移

外国船社クルーズ船の寄港回数推移



出典：港湾管理者への聞き取り調査結果等を基に国土交通省作成

注)

・2012年までの確定値

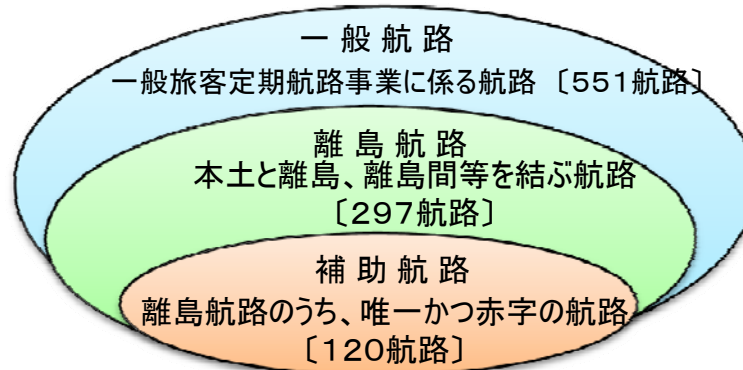
・「2011年の寄港中止数」は、2011年2月末に集計した「2011年の総寄港数」の推計値から、「2011年の寄港数」を除き算出

1. 国内旅客船・フェリーの現状

- 全国で297ある離島航路は、島民の生活の足であり、生活必需品等も運ぶ交通手段。赤字航路が多数あり、本土より深刻な人口減、高齢化により、輸送人員の減少から欠損が拡大する傾向。
- 海上交通ネットワークの中核を担い、モーダルシフトの受け皿である長距離フェリー輸送実績は大きく減少。



国内旅客航路の状況



長距離航路

旅客数は8社11航路の合計、()内はH20年度比

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
旅客数	258万人	233万人	210万人	194万人	219万人 (▲15%)

※H25. 4. 1時点の航路数

離島航路事業者経営形態

区分	民営	3セク	公営	合計
事業者数	156	32	52	240

収支状況

(平成25年4月1日現在)

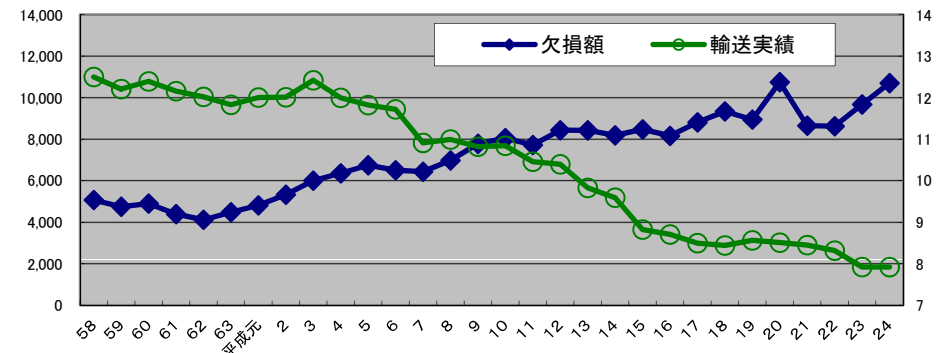
(単位:百万円、%)

年度	営業収入	営業損益	経常損益	経常収支率
21	68,581	▲2,633	▲2,611	96.4%
22	69,071	▲4,024	▲3,843	94.9%
23	73,764	▲7,865	▲6,519	92.2%

欠損額(百万円)

補助航路の輸送実績と欠損の推移

輸送人員(百万人)

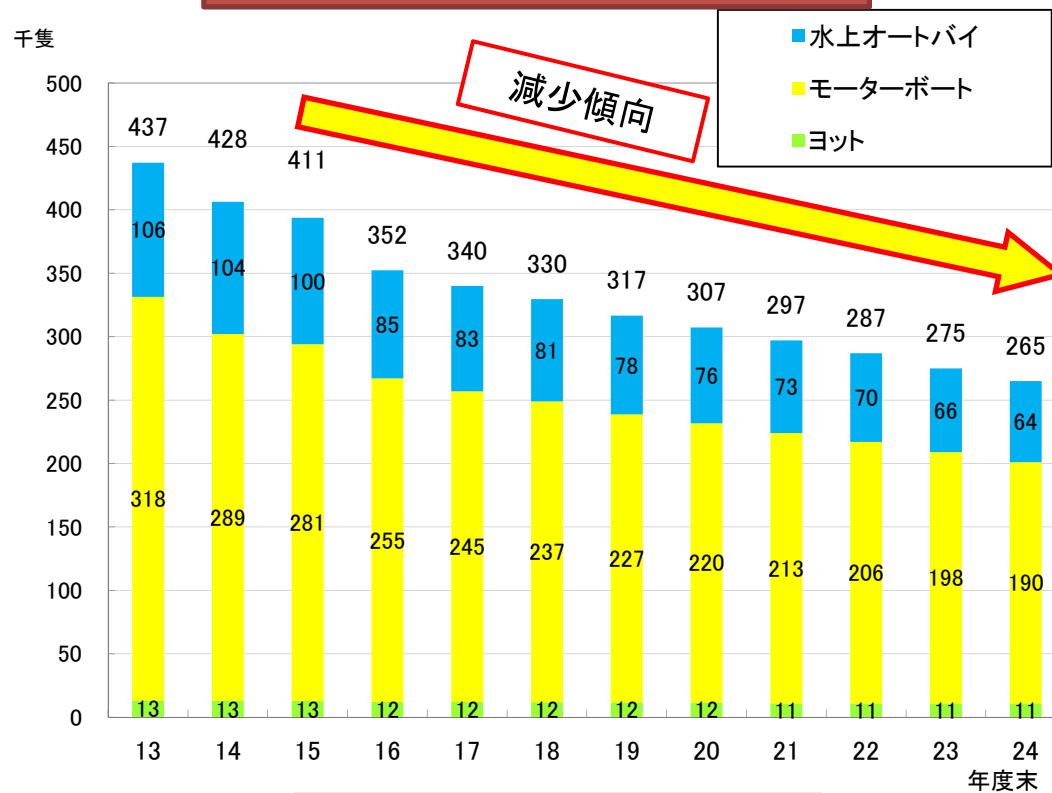


1. プレジャーボートの実態

- ・ プレジャーボート※保有隻数は、平成11年をピークに減少傾向である。
- ・ プレジャーボートオーナーの年齢構成について、60歳以上のオーナーが構成比最大で、所有者は高齢層が主体である。

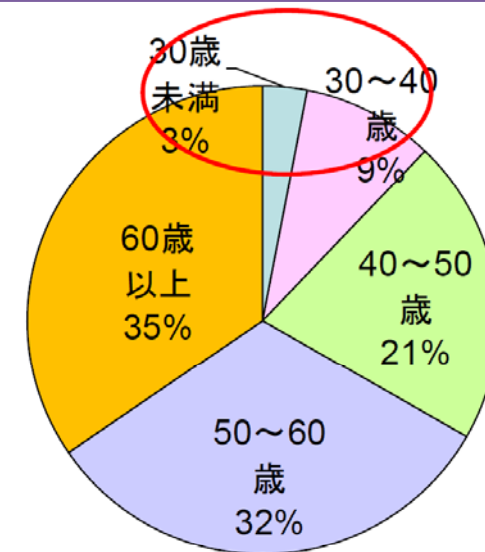
※プレジャーボート：個人が海洋レジャーのために用いる船艇

プレジャーボート保有隻数



出展：小型船舶検査機構「小型船舶統計集」より

プレジャーボートオーナーの年齢構成



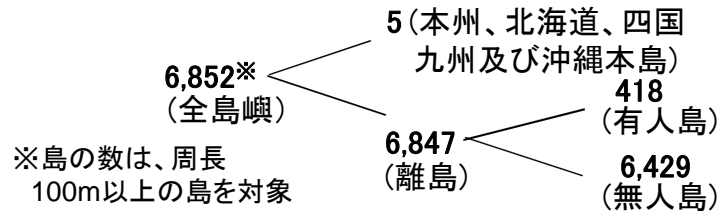
平成22年海事局調べ

プレジャーボート保有者は50歳以上が全体の67%を占めている。

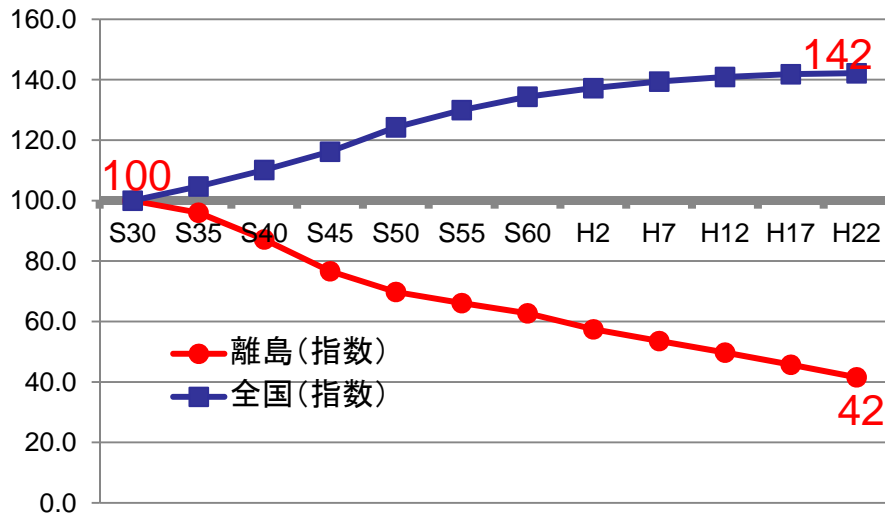
1. 離島をとりまく現状

- 離島には有人島と無人島がある。その役割として領海や排他的経済水域等の保全、海洋資源の利活用拠点、多様な文化の継承、自然環境の保全や、海岸等の自然のふれあいを通じた癒しの空間の提供等がある。
- わが国は6,852の島嶼(とうしょ)により構成されている。このうち、有人島が418、無人島が6,429となっている。

日本の島嶼の構成



離島の人口の推移(S30~H22)



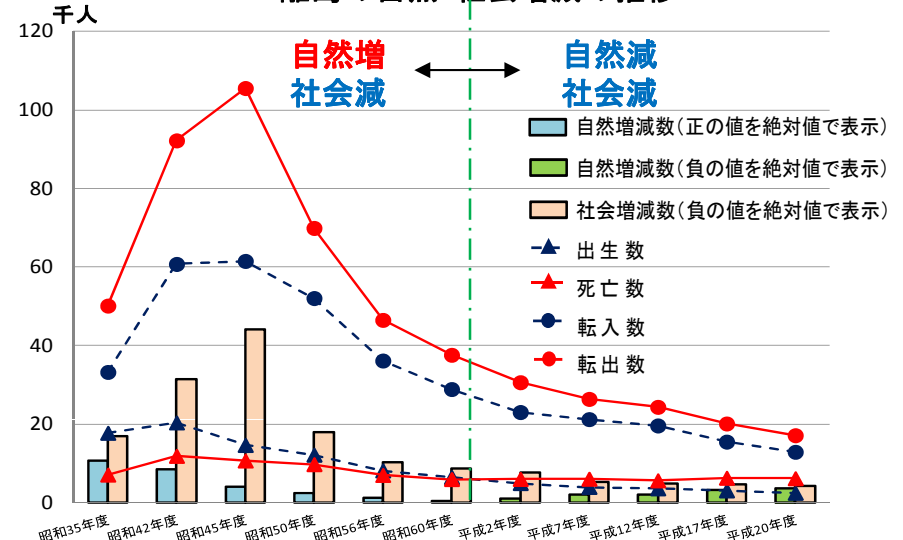
(出典: 国勢調査(総務省)、離島統計年報((公財)日本離島センター))

離島と過疎地域等の人口推移の比較

	離島	過疎地域	全国
人口の増減率(H17-H22)	-9.1%	-7.1%	0.2%

(出典: 国勢調査、「過疎対策の現況」について(総務省)、離島統計年報((公財)日本離島センター))

離島の自然・社会増減の推移

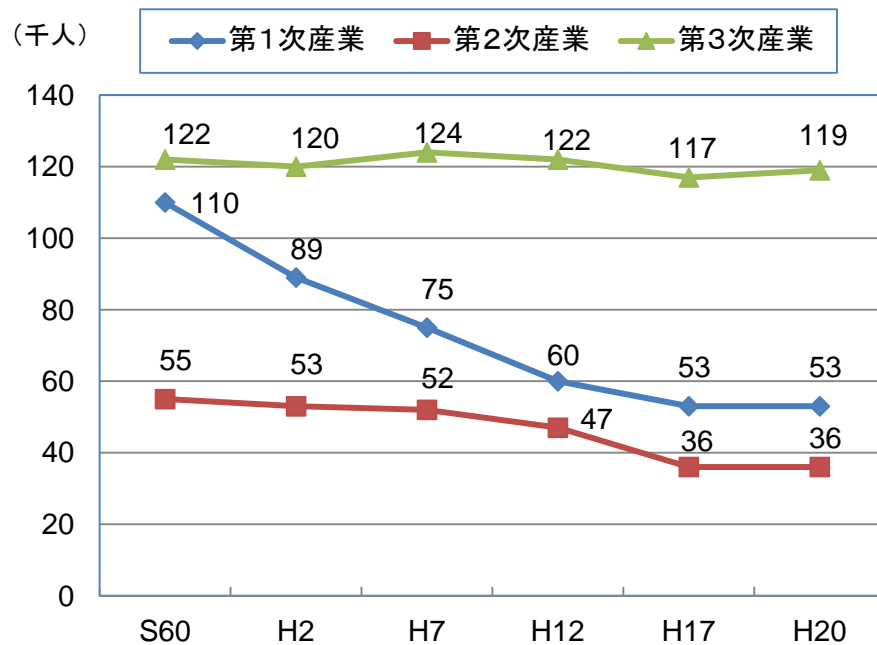


(出典: 国勢調査(総務省)、離島統計年報、離島統計基礎資料((公財)日本離島センター))

1. 離島をとりまく現状

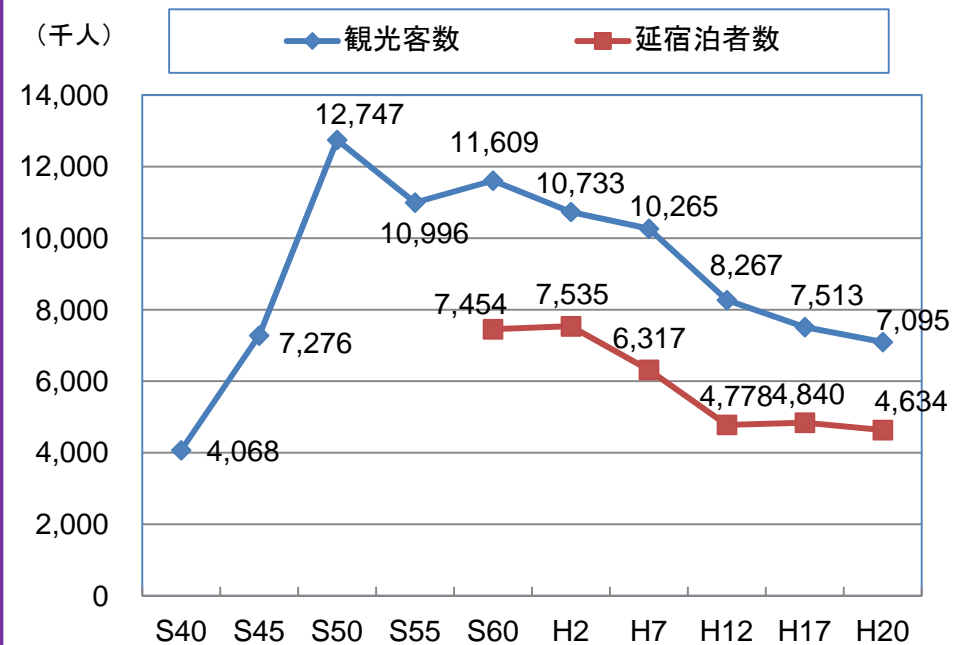
- ・ 離島の就業者数は、第1次産業が、昭和60年から平成20年にかけて約半減しており、落ち込みが激しい。
- ・ 産業別就業者数の構成としては、第3次産業が高い構成率となっているが、離島の観光客数及び宿泊客数は年々減少している。

離島の産業別就業者数推移



(出典: 国勢調査(総務省)、離島統計年報((公財)日本離島センター))

離島の観光客数の推移(S40~H20)

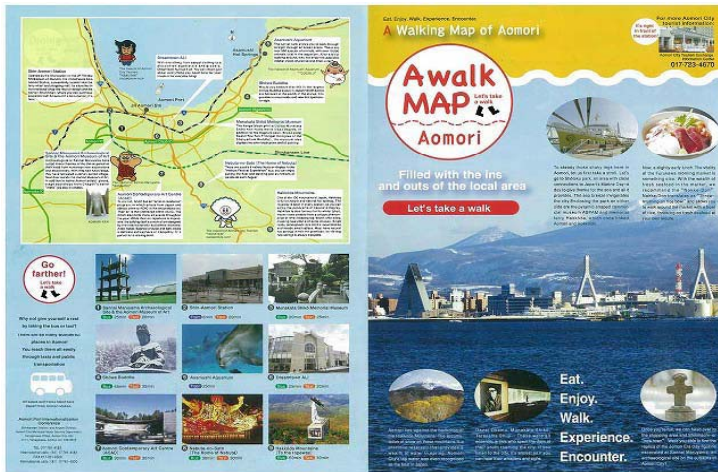


(出典: 国勢調査(総務省)、離島統計年報((公財)日本離島センター))

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

青森港におけるクルーズ振興(クルーズ客目線に立った観光マップの作成)

- 平成23年8月、青森港周辺の飲食店・観光名所の情報が、英語版・韓国語版・中国語版で掲載され、配布された。同様のマップは、青森港国際推進協議会のホームページにも掲載されている。
- クルーズ客の目線に立ち、港から観光名所まで徒歩何分かかるか明記されている。



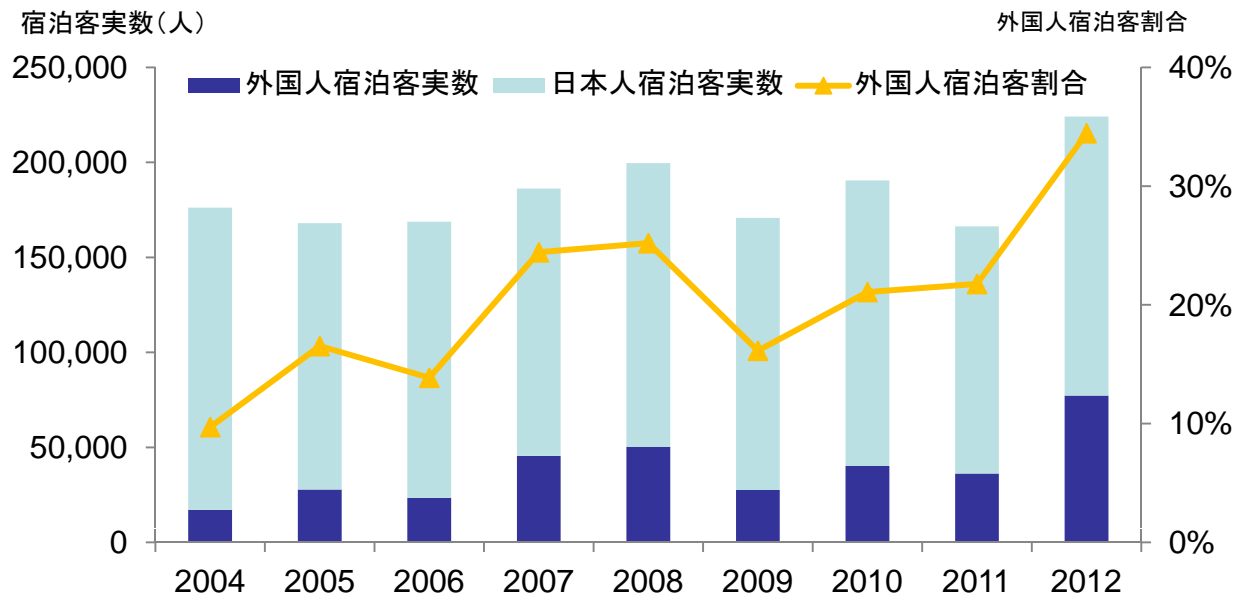
出典：国土交通省東北運輸局報告書、青森港国際推進協議会HP

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

急増する外国人観光客に対応した取組(対馬)

- ・ 対馬から釜山への高速船の就航により外国人観光客が急増し、2012年には、外国人宿泊客実数は77,225人となった。
- ・ (有)対馬エコツアーは、自然資源を活用したシーカヤック体験プログラムを提供している。
- ・ 対馬市商工会は、対馬市、ショッピングセンター、TMO(Town Management Organaization)と協力して、外国語(韓国語)に対応した観光案内、ショッピングサポート、トラブル相談などを実施している。

● 増加する外国人宿泊客



● エコツアー実施場所： 浅茅(あそう)湾とシーカヤック



2. 海洋観光にかかる取組・事例等

瀬戸内海における取組事例

- ・ 2014年は瀬戸内海国立公園80周年であり、瀬戸内海地域では各種イベントを準備。
- ・ 瀬戸内海や離島において、魅力あふれる島々のネットワーク化等を通じて周遊・滞在型観光を促進することにより、新しい旅行需要の拡大とともに島の地域経済の活性化を図る。
(具体的には、瀬戸内国際芸術祭や、しまなみ海道サイクリングなど。)
- ・ また、瀬戸内沿岸の市町村、府県、国交省地方支分部局が連携し、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(海ネット)」を開催。
予備船などを活用したモニターツアーの実施など、瀬戸内の魅力発信に努めている。

瀬戸内国際芸術祭



直島
(なおしま)

会期
春 3月20日(春分の日)~4月21日(日)
夏 7月20日(土)~9月1日(日)
秋 10月5日(日)~11月4日(日・祝)

会場
瀬戸内海の12の島+高松・宇野
直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、砂島、本島、高見島、栗島、伊吹島、高松港・宇野港周辺

芸術祭会場

しまなみ海道サイクリング



瀬戸内・海の路ネットワーク
推進協議会(海ネット)



瀬戸内・海の路ネットHPより



会員市町村(平成24年6月1日現在)

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

水産物の地域ブランド化

- 近年、地域の水産物・食品の差別化を図り、その価値・評価を高めようとする地域ブランド創出の取組が活発化している。
- 成功事例に共通している点は、①地域独自の歴史・物語性等の地域のイメージや地域固有の気候条件等を活用していること、②品質及び品質を保証する名称・マーク等が管理されていること、③マーケティング戦略が優れていること、などが考えられる。
- また、Fish-1グランプリやプライド・フィッシュプロジェクトなどを通じて、ご当地の水産物の高付加価値化を推進している。

● 関あじ・関さば(大分県)



● 取組

漁場の限定、鮮度保持の徹底、知的財産権の活用(1996年商標権取得、2006年地域団体商標権取得)、ポスター配布による新市場の開拓、特約加盟店制度の開始を行った。



● 成果

漁獲量及び生産額が増加。また、関東圏、関西圏方面等への出荷が新規に増え、販売先が拡大した。平均価格も増加し、一般の10数倍で取引されている。

● あのりふぐ(三重県)



● 取組

「あのりふぐ」の定義策定、旅館や飲食店と協力した販売ルート確保、取扱店の限定、知的財産権の活用(2003年商標権取得)を行った。



● 成果

産地市場の単価が向上し、1kg当たり500-1,000円程度高く取引されるようになった。また、従来観光は夏場が中心だったが、ふぐ目当ての冬場の観光客が増加した。

● Fish-1 グランプリ プライド・フィッシュプロジェクト (共に全国)

● 取組(Fish-1 グランプリ)

知られざる水産物を使った料理や商品が新しい名物となって、地域の観光や産業の活性化につながることを目的とした、「魚の祭典」。

下関市ならびに東京六本木においてイベントを開催。

● 取組(プライド・フィッシュプロジェクト)

各地に伝わる漁師自慢の魚料理を消費者が産地に行き、食べて知ってもらうことで、魚のおいしさ、良さを知ってもらうプロジェクト。全国漁業連合組合会が主催。

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

東京港における景観整備(港湾施設の景観調和の取組)

- ・ 東京都は、国際都市のゲートウェイとして、港湾の活動風景を中央防波堤地区の景観の主役として位置付けた。観光資源として、港湾の活動を見せるための演出として各景観要素(施設)を統一感を持った色彩等へと誘導する。
- ・ 平成25年8月、誘導対象施設の一つである「ガントリークレーン」について、基準が定められた。

● 景観誘導基準

- ① バース毎にガントリークレーンの色彩が異なると煩雑な印象を与えるため、埠頭単位で色彩を統一する。
- ② 中央防波堤の外側のガントリークレーンの色彩は、港湾景観のなかで主役として際立ち、船舶や航空機から眺められる東京の玄関口として東京港を印象づける色彩とし、海や空に映える鮮やかな青色(東京港ブルー:マンセル値7.5PB3/10)とする。
- ③ 中央防波堤の外側のガントリークレーンの色彩は、これまでにない新しさが感じられ、かつ作業上の安全性や視認性にも配慮した配色や塗り方とする。配色は青色と白色(マンセル値N9.5)の組み合わせとし、塗り方は構造的な特徴を活かして既存埠頭にはない新しいデザインとする。



大井埠頭ガントリークレーン



- ① クレーンを主役として位置づけ
- ② 色彩が与える印象への配慮
- ③ 海と空、コンテナの色彩への配慮
- ④ 荷役作業や航空上の安全に配慮

ガントリークレーン色彩変更後の港湾景観イメージ

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

国内旅客船を活用した海洋観光の現状

・外航クルーズのみならず、国内においても屋形船や遊覧船の他、旅客航路の乗客が楽しめるサービスが展開されている。

屋形船

- 「貸切営業」が基本だが、最近では「乗合営業」も実施。
- 旅行会社を通じた団体利用が一般的。ただし、団体利用は小口化。
- 東京湾エリアで約90事業者が屋形船を運航。
- 台湾、韓国、中国等アジア系旅行者を中心に外国人が利用。



船上から眺める景観を楽しむクルーズ

- 陸上側からだけでなく、新たな楽しみ方の提供は、「日本らしい景観」を堪能したい外国人旅客にとり、大きな魅力。
- 例えば、駿河湾フェリーは、北斎の絵のような雄大な富士山を眼前に望む我が国でも屈指のシーニック航路。静岡県が本航路を県道223(ふじさん)号として指定(2013年4月)。また富士山が世界観光遺産に選定(2013年6月)され、一段と注目を集めている。



駿河湾フェリーHPより



イベントクルーズ

- 海上移動手段だけではない船の楽しみ方として、隅田川、東京湾エリアでは様々なサービスが展開されている。
- 例えば、東京都観光汽船では水上バスを利用して、夜間にライブイベントや船上バーなどのサービスを実施している。
- 貸し切りクルーズなども実施可能であり、海上ルートも複数保有していることから、様々なシチュエーションに対応することが可能。



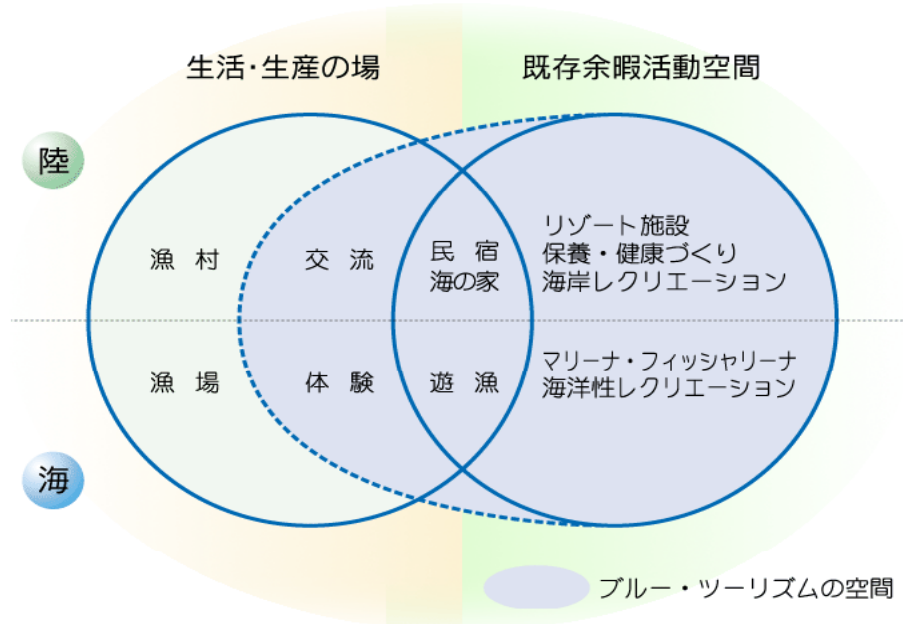
東京都観光汽船(株)HPより

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

ブルーツーリズム

- ・平成11年度国土交通省(旧国土庁)と水産庁の調査報告書では、ブルーツーリズムが提唱されている。
- ・ブルーツーリズムとは、島や沿海部の漁村に滞在し、魅力的で充実した海辺での生活体験を通じて、心と体をリフレッシュさせる余暇活動の総称であり、①国民ニーズに応える新しい余暇活動の提案、②離島・漁村地域の活性化、③漁業と海洋性レクリエーションの調和、をねらいとしている。

● ブルーツーリズムの空間



※フィッシャリーナ…
漁船と漁船以外の船舶(プレジャーボートや釣り船)を分けて漁港区域内に収容する施設とその利用者のためのサービス、安全施設などを兼ね備えた施設の総称である。

● 標津町漁業体験



● 若狭漁業体験学習船



2. 海洋観光にかかる取組・事例等

多様化するクルーズツアー

- ・ 世界のクルーズ人口は急速に増加し、2000年(1,030万人)と比較すると、2010年(2,116万人)には、2倍強となり、今後増加する見込みである。
- ・ マーケット3区分のうち、ラグジュアリークラスは人数ベースで2012年に5%程度である。退職者の利用が多い。
- ・ マーケット3区分のうち、カジュアルクラスが世界的に普及しつつあり、2012年には人口ベースで85%となった。

世界のクルーズマーケット(推定)

ラグジュアリー(ブティック含む)

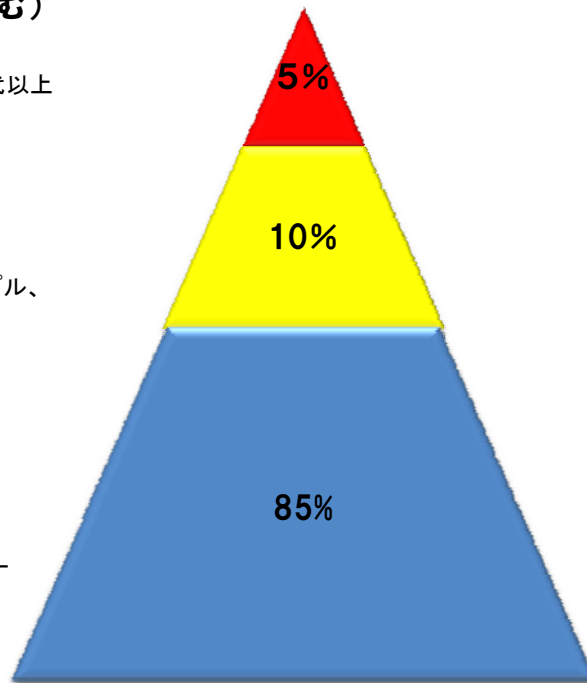
10泊以上のクルーズ中心
1泊: \$400~、乗客: 年齢層は50代以上
タイプ: リタイア、アニバーサリー

プレミアム

7泊以上のクルーズ中心
1泊: \$200~、年齢層: 30代以上、
タイプ: 熟年以上、リタイアしたカップル、
友人、ハネムーン

カジュアル

3~7泊のクルーズ中心
1泊: \$70~
年齢層: 20代以上
タイプ: 現役~熟年、友人、ファミリー



(ラグジュアリークルーズの例)

【飛鳥II(世界一周クルーズ)】

- ・ 約3か月間で17カ国22港に寄港する。計画総航海距離は約30,000マイル(約55,560km)。
- ・ 2012年4-7月のツアーは、400万-2,400万円程度。



(カジュアルクルーズの例)

【日本の絶景瀬戸内海横断クルーズ】

- ・ 8日間で横浜を起点に、神戸、韓国の釜山・濟州島、長崎を巡り、横浜に戻る。
瀬戸内海横断クルージングを見どころとしている。
- ・ 2014年5月3-10日のツアー価格は、10万円弱(8日間)。

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

水中考古学

- ・ 考古学が水中の領域を新しく組み入れて、幅広く構成されるばかりでなく、水底の遺跡の意味を改めて解釈することによって、従来の考古学が不可能とした認識の領域を充たすことを目指し、「水中考古学」が提唱されている。
- ・ 日本では、2011年に長崎県鷹島沖で元寇の沈没船が発見されたのを機に、注目された。一方、韓国では国家主導で支援を受けて、水中考古学の普及・振興に取り組んでおり、東アジア海域の研究をリードしている。
- ・ 2009年「水中文化遺産保護条約」が発効されたが、日本は批准に至っていない。



- 海底遺跡ミュージアム構想(2007年)
 - ・ 小値賀島周辺海底遺跡を対象として、下記について実施された。
 - ① 講座
 - ② ビデオ上映会
 - ③ 船上からの海底遺跡見学
 - ④ 潜水による海底遺跡見学
 - ・ 見学による水中遺跡の理解推進を目的としている。

- 水中文化遺産データベース(2009年)
 - ・ 九州地方を対象に、233件が整備されている。
 - ・ 県名、時代、写真での検索が可能である。



遺跡名称	坊津町坊浦 唐船鑑地区
遺跡名称(ふりがな)	ぼうのつち ぼうぼうら どうせんびやちく
地方	九州 沖縄
都道府県	鹿児島県
所在地	南さつま市坊津町坊浦
所在地(ふりがな)	みなみさつましぼうのつちぼうぼうら
種類	遺物散布地
時代	江戸時代 明治時代
立地	海。水深3～30m以上。
範囲	海底一帯(岩盤斜面地から砂地海底)

2. 海洋観光にかかる取組・事例等

外洋離島への観光見学ツアー

- クルーズ船社によるツアー(計画段階)

- ・ 主体:日本クルーズ客船株式会社
- ・ 期間:44泊45日、46泊47日の2コース
- ・ クルーズ船のルートに応じて、南鳥島や沖ノ鳥島の周遊を組み込んだツアーが考えられている。(上陸はしない)

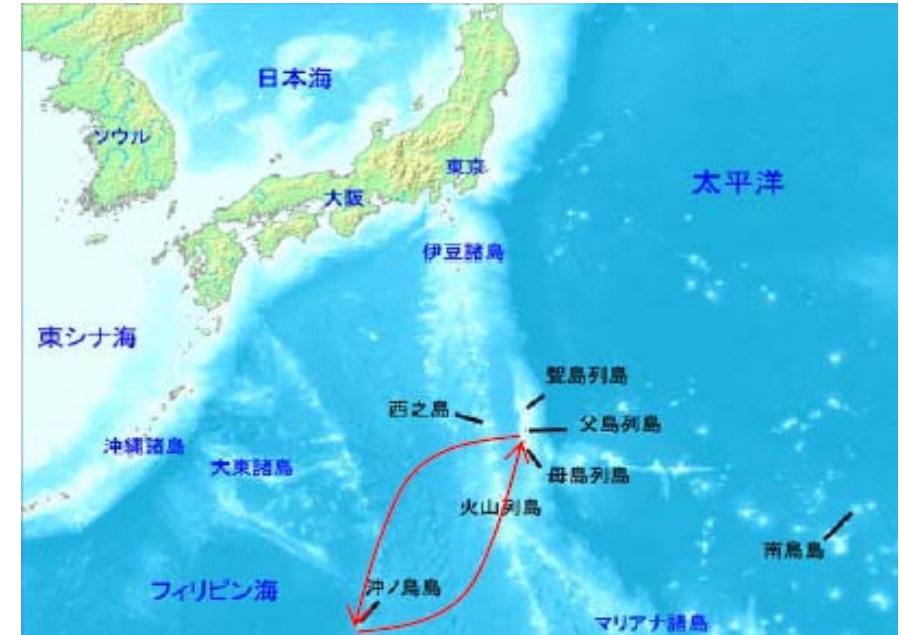
- 自治体によるツアー(台風で中止)

- ・ 主体:小笠原諸島返還45周年記念事業実行委員会
- ・ 実施期間:2013年10月25日~10月27日
- ・ 参加対象者:村民及び本事業に係る関係者
- ・ 島の環礁の外を船で周回し、観察。他に、星空観察会、船内での講演を実施。(上陸はしない)

観光ツアールート



観光ツアールート



2. 海洋観光にかかる取組・事例等

香港の大型クルーズ船向けのターミナル整備と日本市場への期待

- ・ 2013年6月、香港の啓徳空港跡地に、約11億ドル(約1,030億円)の資金を投入して開発したクルーズ客船の発着港が開港した。アジアにおける豪華客船のハブ港となることを目指している。最大係船能力は22万総トンで、世界最大級のクルーズ客船を係留できる。2か所のバースが設けられている。
- ・ 香港発着クルーズ船の需要を見込むことができる地域に、日本と中国の華北・華南地域が挙げられている。日本のクルーズ市場に対する期待がうかがえる。

● 香港観光局HP



● Kai Tak Cruise Terminal



● Ocean Terminal



3. 国土交通省における海洋観光に関する取組

国土政策局

【取組・施策】

「離島の観光推進」

離島活性化交付金事業の対象の一つとして、地方自治体等による離島の観光情報の発信、観光の拡大のための仕掛けづくり及び島外住民との交流の実施など、観光の推進による交流の拡大を支援。

「アイランダーの開催」

全国の島が一同に集結し、島のもつ自然・歴史・文化・生活などのすばらしさをアピールすると同時に島の魅力を体験する情報や島での求人情報などを提供する「アイランダー」を実施。

「奄美群島、小笠原諸島の観光推進」

○奄美群島

地方公共団体が実施するサンゴ礁保全対策事業(オニヒトデ駆除等)や観光拠点整備事業(海岸観光レクリエーション施設)への支援。
これにより、平成28年に沖縄と同時の登録を目指している世界自然遺産を活用した海洋観光を支援。

○小笠原諸島

クルーズ船等の停泊を可能にする係留施設の整備や観光振興に関する調査、平成23年6月の世界自然遺産登録以降一層関心が高まった自然環境の保全(植生回復、自然ガイドの育成)、その他関連する基盤整備を含む、地方公共団体が実施する小笠原諸島の振興開発事業に対する支援。

「定住促進」事業	「交流促進」事業	「安全安心向上」事業
産業活性化事業 雇用機会の創出のための戦略産品開発 戦略産品の移出に係る輸送費支援	離島における地域情報の発信 交流拡大のための仕掛けづくり 島外住民との交流の実施の推進	災害時の孤立防止のための防災体制の見直し 離島のエネルギー自立のための調査、計画策定
定住誘引事業 U・J・Iターン希望者のための情報提供 空家改修等の人材受入れのための施設整備	 観光メニュー開発	 エネルギー自立のための調査
 戦略産業の育成	 戦略産品の輸送費支援	



アイランダー2013の様子:アイランダーHPより

3. 国土交通省における海洋観光に関する取組

水管理・国土保全局

【取組・施策】

「海岸愛護月間(毎年7月)の取組」

- ・国民の共有財産である海岸を貴重な生活空間として、いつまでも良好な状態に保つとともに、安全かつ適正な利用のため、海岸愛護思想の普及と啓発、及び防災意識の向上を図ることを目的とし、昭和47年から毎年7月を『海岸愛護月間』とし、海岸愛護の取組(海岸清掃、花火大会等の海浜イベント)推進や海岸愛護写真コンクール(後援)等に取り組んでいる。



「利用・環境・景観に配慮した海岸整備事業の推進」

景観に配慮した施設整備

砂浜の再生

- ・消波ブロックを、沖合の離岸堤に転用し、砂浜を再生
- ・防護機能の確保と、環境負荷の低減、景観・利用への配慮を同時に実現



(静岡県富士市 富士海岸)

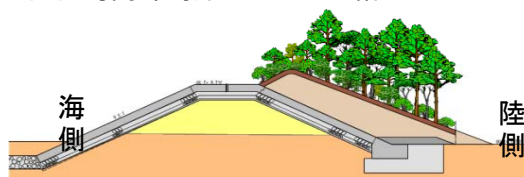
緑の防潮堤の整備

- ・堤防と一体的な盛土・植生を配置した緑の防潮堤を整備



平成25年6月30日
植樹式典の状況

仙台湾南部海岸における整備イメージ



利用者に配慮した施設整備

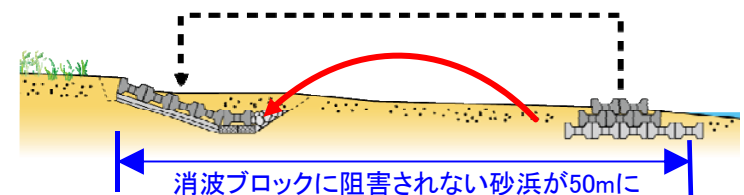


生態系に配慮した施設整備

- ・露出した消波ブロックが産卵のために上陸するウミガメの進路を障害していたため、消波堤のブロックを移設し、緩傾斜護岸を整備



アオウミガメの産卵



消波ブロックに障害されない砂浜が50mに

3. 国土交通省における海洋観光に関する取組

海事局

【取組・施策】

「国際航路の利用促進による外国人観光客の誘客」

- ・日韓海運局長会議、APEC交通大臣会合等の場を通じて、我が国を含む東アジア地域でのクルーズ振興を促進。
- ・近隣諸国とのクルーズの振興。
- ・日韓間の定期旅客船の振興。
- ・日ASEAN連携によるクルーズの振興。



「国内航路の利用環境の改善・利便性の向上等による外国人観光客の誘客」

- ・インバウンドの巨大市場である東京における船旅の魅力発信(例:屋形船等)。
- ・地域の観光資源を生かした船旅の魅力発信(例:富士山等)。



「インバウンド政策推進に資する新たな海洋観光の検討」

- ・MICEの戦略的展開(ポートショー、シージャパン等)。
- ・各種イベントの活用や関係機関との連携強化(海フェスタ(今年7月舞鶴で開催)、航海訓練所の帆船、モーターボート競走等)「海の駅」の活性化(全国148か所、外国人観光客がマリンレジャーを楽しむ拠点となる)。

【関係イベント】

- ・昭和61年より、毎年「海の日」にあわせて全国の港湾都市にて「海フェスタ」を実施。
- ・日韓海運局長会議の合意を受け、九州運輸局、九州地方整備局と連携して「日韓フェリー・定期旅客活性化フォーラム」を25年12月に福岡で開催したほか、沖縄の地域振興と近隣諸国とのクルーズ振興を図る目的で、沖縄総合事務局と連携して「クルーズ・シンポジウムin沖縄」を25年12月に那覇で開催。



3. 国土交通省における海洋観光に関する取組

港湾局

【取組・施策】

「クルーズの振興」

- ・全国の港湾管理者等が参加し、全国レベルでのクルーズ振興・誘致を図る「全国クルーズ活性化会議」の活動支援。
- ・外国クルーズ船社等からの問い合わせに一元的に対応するワンストップ窓口の設置。
- ・旅客船ターミナル等の整備。
- ・港湾施設の諸元や連絡先などの情報を提供するホームページの立ち上げ支援。
- ・寄港地周辺の観光情報を発信するウェブサイトの開設に取組中。
- ・世界最大のクルーズコンベンション「クルーズ・ SHIPPING・マイアミ」における展示スペースの確保等、プロモーション活動の支援。

「観光振興に資する緑地、親水護岸、人工海浜等の整備」

「みなとオアシス等の取組支援」

にぎわいや交流促進に資する一定の要件を満たす「みなと」の施設を地方整備局等が認定・登録する「みなとオアシス」の全国的な取り組みを支援。



クルーズ・SHIPPING・マイアミ 会場の様子 日本ブースの様子 全国クルーズ活性化会議 パンフレットの配布

【関係イベント】

- ・「クルーズ・シンポジウム in 沖縄」を平成25年12月に那覇で開催。
- ・全国各地の「みなとオアシス」が地元の海産物を使った“旨いもの”を持ち寄る「みなと」を舞台としたグルメイベント「みなとオアシス Sea級グルメ全国大会」がみなとオアシス全国協議会により開催。
- ・江戸前を語るトークショーや、「アオギス」の生きた展示、江戸前の試食、海中3D体験や水中映像等、東京湾の魅力や恵みを楽しみながら再発見できる「東京湾大感謝祭」の開催。

3. 国土交通省における海洋観光に関する取組

観光庁

【取組・施策】

「外航クルーズ船社への訪日プロモーション」

外航クルーズ船の日本寄港に向け、外航クルーズ船社への訪日プロモーションを行っている。

【関連イベント】

○クルーズ船を活用した観光交流の促進を目的としたシンポジウムの開催

- ・平成25年12月に「クルーズ・シンポジウム in 沖縄 ～クルーズを活用した近隣地域との観光交流の拡大に向けて～」を開催。

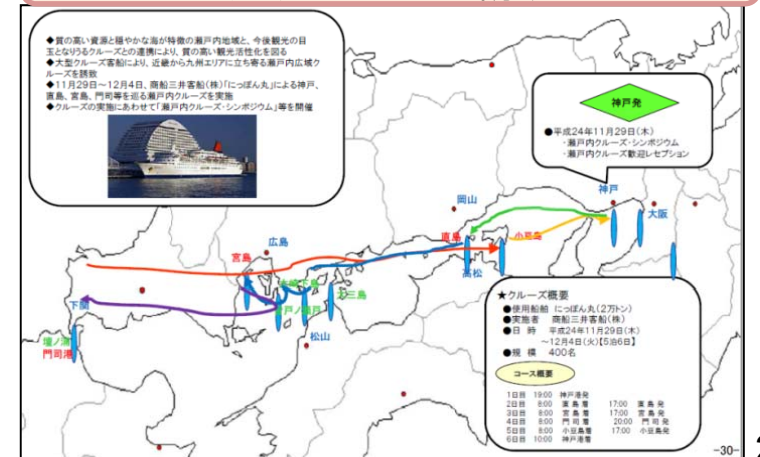
「官民協働した魅力ある観光地の再建・強化事業」

地域と旅行会社、交通事業者、旅行メディア等が連携し、地域の観光資源の磨き上げを通じた確実な商品化と地域の魅力の情報発信等を行っており、瀬戸内海でのクルーズをテーマとしたモニターツアーの催行等、旅行商品の造成に向けた取組を支援している。

クルーズ SHIPPING マイアミにおけるプロモーション



クルーズ客船による瀬戸内 広域クルーズの誘致



以下の論点について、
ご議論いただければ幸いです。

- 海洋観光の魅力とは何か？
- 海洋観光に関する課題は何か？